

保育現場の切実な声 市当局に届ける

全国福祉保育労働組合島根支部(執行委員長:三戸 睦)の保育士・調理師・看護師の代表が、8月4日に行われた「保育現場の切実な声」の回答結果に基づき、市当局に届けるための要望書を送った。



松江市からは、青木佳子子育て部次長をはじめとする7名の職員が対応し、橘・吉儀・田中の党市議団も同席しました。

今年には特にコロナ禍の中で、緊急事態の時期に、保育所は医療・介護労働者の仕事を支える重要な役割を担ったことから、保育に当たった労働者に「慰労金」の支給を国に働きかけ、市独自の支給についても要望するという内容が、第1項目に挙げられました。

市の「国・県の動向を注視しながら検討する」との回答に対して、現場から「医療現場の職員には慰労金が出されたのに、その職を支える保育職員が給付の対象から外されたことは納得いかない」という声が出されました。

他に、保育園の職員配置基準の見直し、5歳児検診の改善など7項目について現場の切実な声が出されました。

「医療現場の職員には慰労金が出されたのに、その職を支える保育職員が給付の対象から外されたことは納得いかない」という声が出されました。

平和の波行動で朗読劇、長崎の日に平和の鐘響く



8月9日、新日本婦人の会松江支部は松江市洞光寺にて、朗読劇と西尾幸子さんの戦争体験のお話をしました。

朗読劇「さあちやんとヒロシマ」は、当時広島第一高等女学校1年だった西尾幸子さん(88歳)が、自分は島根に疎開し難を逃れたが、同級生223人を原爆で亡くしたという体験をもとにしたものでした。

この会は、日本原水協のよびかけた「平和の波」行動の一環として取り組まれ、お話の後、長崎に原爆が落とされた時間十時二分にあわせてお寺の鐘を鳴らし、参加者一同で黙とうしました。この洞光寺をはじめ、市内6か所の寺院が6日、9日に平和の鐘を響かせました。

市民と共に歩んで…

ずいそう



「原発のない松江を」

田中はじめ

コロナと共に生きる時代

「効率優先」でなく「命と暮らしを優先する政治」を!

を!

4年前の市議会議員選挙で、皆様のご支援により、日本共産党の3議席が実現でき、新人の私を議会へ送っていただきました。それ以来、原発のない松江を子ども達に手渡すため、市民の声が届く政治を実現するために、努力してきました。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、「今の政治では、命も暮らしも守れない」ことを、誰の目にも明らかにしたのではないのでしょうか。

医療や福祉・介護、教育や社会インフラ、物流、小売業に全力で頑張ります。

総選挙・市議選で、**国政・市政の革新を!**

「効率優先」でなく「命と暮らしを優先する政治」の実現が求められています。

「命と暮らしを優先する政治」

核兵器廃絶を!

「平和の波」

行動、6日から9日・松江

広島と長崎に原爆が投下されて今年で75年になります。

新型コロナウイルスの影響



8/6県庁前で8時15分に黙とう

で、今年の原水爆禁止世界大会は、「オンライン」での開催となりました。

松江市では、原水爆禁止島根県協議会、新日本婦人の会共催で、「平和の波」行動のスタートとして6日、県庁前に50人が集まりました。

そのために、各地で、出来るやり方で核兵器廃絶に向けて行動しようとして「平和の波」行動がよびかけられました。

参加者は午前8時から「今核兵器をなくすとき!」「核兵器禁止条約に日本は参加を!」などと書かれた横断幕やプラカードを掲げてスタンディングを行い、原爆投下時刻の8時15分には黙とうしました。